

汽車の出現

明治五年（一八七二）東京品川と横浜桜木町に汽車が始めて開通して四十五年後の大正五年（一九一六）七月一日、私鉄阿波軌道が徳島新町橋と撫養エビス前間に開通され、旧吉野川北岸に無人駅の市場駅が、南岸近くに勝瑞駅が設けられ、北島町民も多く勝瑞駅を利用した。昭和八年七月一日鉄道省が阿波軌道を買収し、その一〇年三月二十日高德本線が開通してそれと同時に勝瑞駅前に馬車を使って農産物、漬物樽を運ぶ運送業者があらわれ、その前年の昭和九年に東邦人絹徳島工場が高房に立地し、その稼動につれて今日の発展を見るに至ったのである。鉄道は速力と大量輸送による低廉な運賃と安全の点から従来の交通機関とは比較にならぬ便利さをもつ。人々は安易気楽に旅行が出来るようになった。そしてまた、汽車が普及して荷馬車・人力車もまた、駅を起点として広がった。

水上交通

一方水運について述べると、吉野川の河口近くに位置する本町においては水運の多大な恩恵を受けて来た。高瀬船、ヒラゲ船など底の浅い扁平な川船が吉野川を上下して、上中流の薪炭・和紙・煙草その他種々の農産物を